

日曜文芸

詩

藤田 民子選

ひぐまよ

米道 貞治(札幌)

もみじがきれいだったって食えねえしな  
冬も近い、子ぐまもいるんだろう  
どんぐりも、こくわも不作らしいな

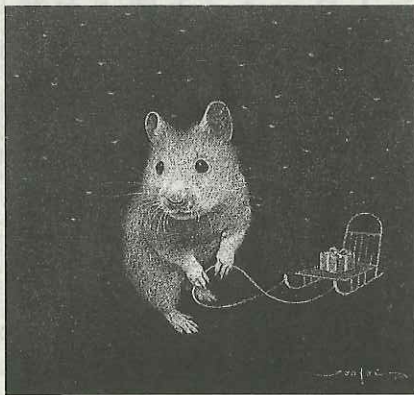
あぶない、あぶない、そう思いながら  
つい人里にくるんだろう、が、  
人間って奴は無情だぞ  
小さいわが子を殺す人が多くなった  
生きもののうちで、最低だろうな  
それが近頃の人間なんだ

住宅地で鉄砲は撃てないってことだが  
わからないよ、お前たちの出方次第だ  
山の奥さ帰って子ぐまたちと  
一緒に冬のねぐらを見つければ  
命があれば、あしたがあるんだ

昔からアイヌ民族がカムイ(神)と尊び、  
道産子は山親父と呼んで親しんできたヒグ  
マ。今秋はその出没がさかんに報じられた。  
被害を受けた方々には、まことに厭わしい存  
在に相違ない。が、撃ち殺されたヒグマのむ  
ごい姿にも悲憤がわく。本来は、雄大な自然  
のふところ深くに生きる、大型野生動物との  
すみ分けを人は果たすべきなのだ。2連目の  
痛烈な批判は、熱いヒューマニティーと同根。  
直截な一行目、心をこめた終行に共感する。

〈入選〉

- 「オーバーテイク」藤田さおり(余市)
- 「秋の時計」しちのへきよこ(札幌)
- 「落ち葉」寺岡 京子(北広島)
- 「ルビーの瞳」中田貴美子(札幌)



<うけとってくれるかな>

中原 宣孝